

PAG 検査結果通知システムによる結果配信サービスへの移行

現在は、希望する酪農家を対象に、複合機を利用した検査結果(PDF ファイル)のメール送信による結果配信を実施しています。

今般、PAG 検査結果通知システムを導入しましたので、切替準備ができ次第移行したいと考えています。

現状、PDF を開いて検査結果を確認する方法で運用していますが、システムを通してテキスト配信するのでより確認しやすくなります。

所属組合を通した結果通知より早く検査結果を把握したい場合は、ぜひ本システムをご利用ください。

【サービスの概要】

- ・希望するメールアドレスをシステムに事前登録。(1人当たり3つまで可)
- ・登録したメールアドレス宛に結果をテキスト配信 →①参照
- ・割り当てたID(6桁)を入力し、WEBでの結果確認 →②参照

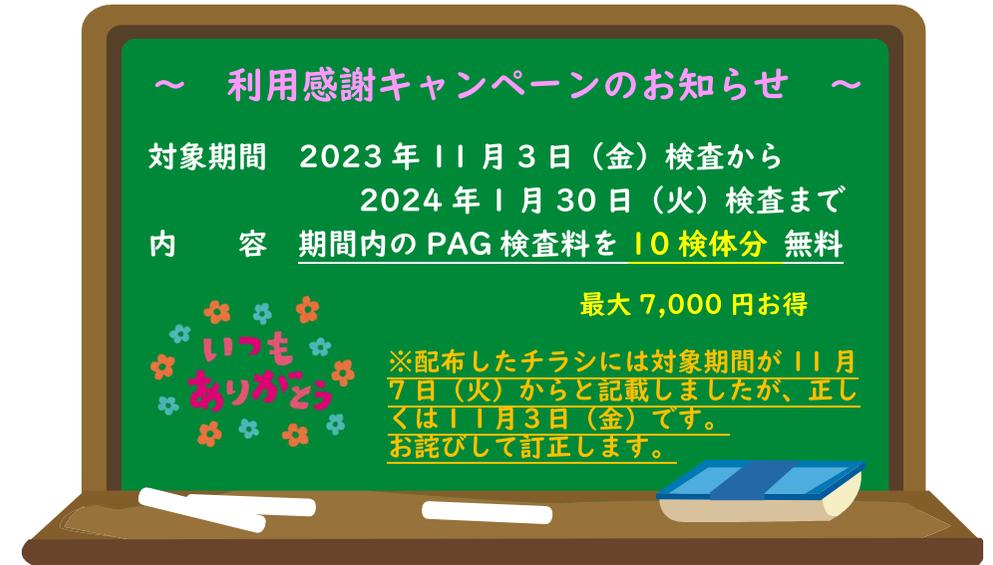
<p>生産者名：関東 太郎</p> <p>①</p> <p>[検体番号] 1234567890 [人口受精日] 5.6.14 [S-N] 1.333 [判定] + [その他] テスト</p> <p>.....</p> <p>[検体番号] 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 [人口受精日] 6/12 発情 6/19 移植 [S-N] 1.221 [判定] + [その他]]</p> <p>.....</p> <p>[検体番号] あ [人口受精日] 23/8/30 [S-N] 1.333 [判定] + [その他] テスト</p> <p>■結果判定基準</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid red; padding: 5px;">イメージ</p>	<p> PAG検査結果 </p> <p>更新日:2023/08/30 11:39:37</p> <p>②</p> <p>■結果判定基準 低値 (-) : sn<0.100 判定保留 (±) : 0.100≤sn<0.250 高値 (+) : 0.250≤sn</p> <p>生産者名：関東 太郎</p> <p>検体番号 :1234567890 人口受精日 :5.6.14 S-N :1.333 判定 :+ その他 :テスト</p> <p>.....</p> <p>検体番号 :1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 人口受精日 :6/12 発情 6/19 移植 S-N :1.221 判定 :+ その他 :</p> <p>.....</p> <p>検体番号 :あ 人口受精日 :23/8/30 S-N :1.333 判定 :+ その他 :テスト</p> <p>■結果判定基準</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid red; padding: 5px;">イメージ</p>
---	--

問合せ

所属農協担当者へご連絡ください。

酪農家のみなさまへ

酪農経営の収益性向上のため、PAG検査を活用してください!



集乳ローリー経由
でCS等へ



5検体以上の場合は
生乳検査センターへ
着払いでの発送OK

関東生乳販売農業協同組合連合会

酪農家のみなさま、PAG 検査を活用すれば

早期に空胎牛を確認でき、経済損失を軽減できます

PAG 検査とは、妊娠時のみ胎盤から分泌される糖タンパク(PAG: Pregnancy Associated Glycoproteins)の乳汁中の数値を調べることで、妊娠/空胎の確認(あるいは妊娠継続確認)を行うものです。牛への負担もなく、妊娠確認の指標として有用です。

《経済損失のイメージ》

★前提条件

- ・1日あたり空胎損失額 5ユーロ(1ユーロ140円と仮定すると700円)/頭 *アイデックス社調べ
- ・関東地域の平均分娩間隔 443日 *R3家畜改良事業団成績表より
- ・平均分娩間隔の第一次目標は400日(目指すは360日)
- ・1戸あたりは、関東地域の経産牛平均飼養頭数45頭が同様の平均分娩間隔と仮定 *畜産統計より

◆経済損失額

1頭あたり 30,100円~58,100円 1戸あたり 135万円~261万円

管内のPAG検査利用農家がメリットと感じていること

早期に妊娠診断ができる

直腸検査 授精後50日前後

PAG検査 授精後28日目から
約22日早い

空胎であることがわかり、次の授精に向け対応がしやすい

陰性の場合、獣医師と相談しホルモン処置を行い再授精などの対応を早期に判断できます。



空胎期間の短縮が図れる

直腸検査を行うことが難しい牛の妊娠診断ができる

- 流産しやすい牛
- あばれる牛

農家の傷害・事故防止

牛を追う必要がなく、ケガ等を防止できる。

乳牛にストレスがかからない

牛を保定したり、触診することがないことから、乳牛にストレスがかかりません。



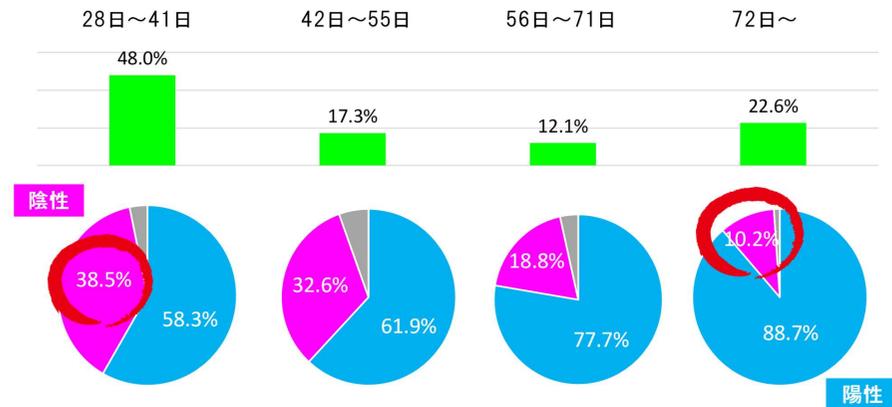
作業時間が短縮できる

乳牛を捕縛・保定したり、獣医師が来るのを待つ必要がなく、作業時間が短縮できる。

管理がしやすい

「+」判定の場合、発情観察をしなければいけない牛の頭数を減らし、他の牛への観察に重点をおける。

人工授精後日数ごとの利用状況(2023年4月~8月) n=2,853



★早期の妊娠確認を目的とした人工授精後41日までの利用が48.0%で最も多い。

→約4割は空胎であることが確認でき、次の繁殖に向け早期治療へ移行可能!!

★次いで多いのは72日以降で22.6%。妊娠維持の確認や乾乳前の確認を目的に実施している。

→約1割は陰性(空胎)であることが確認されている。

㈱生乳検査センターでのPAG検査

1. 検査料金 1検体当たり700円(税抜き)

2. 検体送料 以下の場合(㈱生乳検査センター負担)

・㈱生乳検査センターへ送付するクーラーボックスにローリーサンプル等と一緒に混載する場合

・5検体以上PAG検査サンプルを送付する場合

*この場合、箱などの容器は各自でご準備ください。

3. 検査日 毎週火曜日及び金曜日

原則、検査結果は検査当日の16:00までに所属農協へFAXで報告

※希望する酪農家へはメールでの結果配信サービスあり